

資料 7-4-①

令和4年(2022年)6月29日(水)
第7回市民参加推進審議会

市民参加実施状況報告書①

市民参加を実施した計画・条例等の名称	実施所管名
(仮称)八王子駅周辺地区屋外広告物地域ルール of 策定	まちなみ整備部まちなみ景観課
策定の目的	策定期間(準備～策定)
景観計画と屋外広告物条例の連携による景観形成の推進	令和元年度～令和4年度
1. 策定にあたり実施した市民参加の方法	
a) イベント出展、b) ワークショップ、c) 審議会	
2. 上記1で記載した市民参加方法を採用した目的、及び実施前に期待した効果	
a) 不特定多数の市民に向けた意識啓発及び周知 b) 地元関係者及び景観まちづくりの関心の高い特定の市民等の意見を聴取することによる地域特性の把握及び検討の推進 c) 市民意見のとりまとめ方に関する専門家の意見聴取	
3. スケジュール設定について(より適切な市民参加方法を効果的に行うため、どのように考えて各市民参加方法の実施時期を設定したのか)	
不特定多数向けのイベントによる導入後、特定の参加者によるワークショップで取り組み内容の検討を深め、今後は意見交換会等で再び不特定の方へ広く発信・情報交換することとし、段階的に合意を得る流れを設定している。	
4. 対象者の設定について(計画や条例等の影響を受ける市民による積極的な参加や意見聴取が大切であることを踏まえた上で、どのように対象者設定を行ったのか)	
対象地区内の市民に対し制限を課す可能性を含むルール等の検討であることを踏まえ、地元の商店会及び町会を優先した。一方、新たな立場・観点からの意見を獲得するため、地区外の市民も募集するとともに、ワークショップのコーディネートに依頼した大学教授等に協力いただき、学生の参加を推進した。	
5. 周知方法、並びに周知時期(実施のどのくらい前に周知したか)	
<ul style="list-style-type: none"> ・市広報及びHP: 約40日前(コロナ禍で延期したが、その都度HPを更新) ・商店会及び町会: 約3カ月前(当時、時期は未定であったが事前相談を兼ねて予め周知した) 	
6. 実施場所(実施内容)について(どのような考えで決めたのか)	
地元の方も地区外の方も参加しやすいよう、八王子駅から徒歩圏内かつ対象地区内の施設(まち・なかギャラリーホール等)とした。	

<p>7. 意見反映について（上記1で記載した市民参加方法の実施回数ごとに寄せられた意見は、計画や条例等策定のどの段階で活用したか）</p>
<p>bのワークショップ及び景観デザイン会議（ワークショップの企画及びまとめの場）で得た意見・成果は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各回のまとめを次の回にて報告し、 ② 3回目までの内容をニュースレターとして公表し、 ③ 4回目までの内容を提案書としてまとめ、さらなる市民周知に活用予定。なお、③に先駆け、提案書をcの審議会に報告し同意を得た。
<p>8. よりよい市民参加のための新たな実施方法について（どのようなアイデアが考えられるか）</p>
<p>コロナ禍において、会場の人数制限に対応するため参加人数を増やすことが難しく、賛意を持つ市民参加者を増やすことが難しかったことから、オンラインやSNS等の環境を整え、コロナ禍でも安全に周知・意見聴取できると良い。SNS等を有効に活用できれば、コロナに関わらず気軽な参加方法の拡充につながると思われる。</p>
<p>9. 市民参加促進について（促進のために必要なことは何か。——市民が自主的に参加したくなるような動機づけとして考えられるものはあるか）</p>
<p>親子参加イベントなど楽しめる要素を取り入れ、いつのまにか景観形成に携わっていたと気付く仕掛け。 学生が参加しやすい仕掛け。 SNS等で「いいね」ボタンを押す感覚で、気軽に意思表示できる仕掛け。</p>
<p>10. 上記1で記載した市民参加の方法を実施した感想（市民参加とはどうあることが望ましい・あるべきと感じたか）</p>
<p>本施策は計画や条例に定めることが最終目標であるが、私権の制限に係る内容の場合、一部の市民の反対は避けられず、これら反対意見とは平行線の可能性がある。</p> <p>一方、今回は景観形成の推進を支持する市民等からワークショップにおいて賛意を得ているが、それも一部の市民意見と見なされる可能性がある。</p> <p>そこで、おそらく多数であろう潜在的な賛意（いいね）を表出させ、市民意見の本流として取り扱えると良い。</p> <p>景観形成の推進においては、規制することと同時に、自主的な創意工夫を誘発することが良好な景観形成につながる。後者の「自主性」こそが市民との協働による景観まちづくりを進める望ましい姿と感じる。</p> <p>今回の地域ルール策定においては、最終的に策定に至るまでに、情報発信や学生との協働による実験的な提案等を通じて、より多くの市民の賛意を得たいと考えている。</p>